

藤原京左京八条三坊の調査(飛鳥藤原第202次)

市道(国道165号小山線)の一部付け替え工事にもなって、2019年11月18日から藤原京左京八条三坊東南坪で発掘調査を実施しています(調査面積608㎡)。香久山の南西麓にあたり、法然寺の東に位置するこの場所は、現在、水田風景がひろがっています。中の川の支流である百貫川が北流しているように、旧来は、おそらく東と西の高燥地に挟まれた狭小な谷状の地形だったのでしょうか。

さて、水田の耕作土や床土を掘り進めていくと、地表下1mほどの深さで、細かな砂層や拳大の礫層が見つかりました。これらの土層は、弥生時代やそれ以前に起こった洪水によって運ばれた自然堆積土と考えられます。その上面で遺構を検出しました。

中世では、縦横に伸びる小溝を多数検出しました。この小溝は、田畑耕作にともなう鋤溝と思われます。また、田畑を区画するような幅広の溝も確認でき、一部ですが、現在の水田畦畔の場所と一致するものがありました。この地での田畑耕作は、少なくとも中世にまではさかのぼるようです。

調査区の南半では、洪水によって生じた起伏を平坦に整備するような、中世の整地土が見つかりました。田畑耕作にくわえ、中世には土地を整備し、利用していたようです。調査区西の法然寺は中世の創建と伝えられており、こうした動向と関連があるのかもしれない。

さらに、斜行大溝や掘立柱建物の柱穴等、藤原京期と思われる遺構が見つかりつつあります。藤原京期には、どのような土地利用があったのか。次号で紹介する予定です。ご期待ください。

(都城発掘調査部 和田 一之輔)



調査風景(南東から)